

# インドネシア・西カリマンタン宣教 ニュース・レター



発行：日本福音教会（JEC）インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町 2-42 西宮福音教会内 ☎ 0798-51-5100

郵便口座 00970 - 3 - 313875 「インドネシアミッション」

ホームページ：<http://www.geocities.jp/indonesiaasrama/>

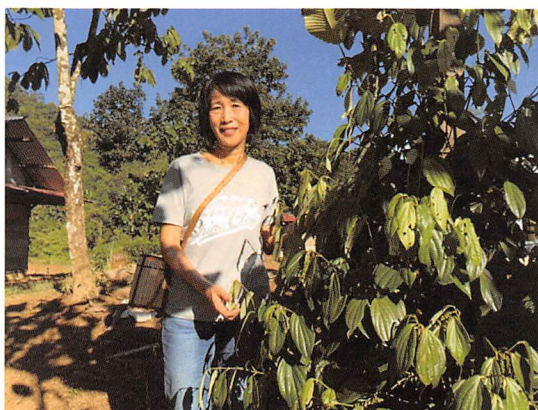
## 「インドネシアミッション」

アンテオケ宣教会宣教師 高橋 めぐみ

インドネシア・西カリマンタン宣教のために、皆様の変わらないお祈りとご支援に心から感謝いたします。この5月より「高橋めぐみ宣教師を支える会」は「インドネシアミッション」に改称して更に働きを継続しています。続けて皆様からのお祈りとお支えを心からお願いいたします。

この名前に改称した背景には、これから益々多くの人にこの働きに加わっていただき、「共に」組み合わせられてより広く宣教の働きを前進させていきたいという願いがあります。現地での必要に、賜物や重荷のある方々が短期でも関わっていただき、これからさらにこの働きを「共有」していけたらと願っています。

昨年はエンティコンで、グロリア中高生寮Ⅰの移転・再建築プロジェクトがありましたが、重要な基礎工事の時から、堺福音教会伝道師の東聖土先生が半年間、現地に滞在して監督の働きをしてくださいました。建物は今年に入って完成し、3月には献堂式を行う事ができ感謝でした。現在は建物の周りの地崩れ対策の為に排水溝や土留めなどの工事は継続されていて、続けて東師は重荷をもって何度も現地に赴いて下さっ



インドネシア・西カリマンタン宣教は継続していきます

ています。東先生と、遣わしてくださっている教会が、特にカリマンタンの奥地での難しい建築を共に担ってくださって、大変嬉しくまた心強く思っています。

その他にも寮の高校生、大学生たちが少しでも学費稼ぎができるようにと、パンやお菓子作り、縫物の基本を教えたいと動き出している姉妹もおられ、いろいろな方々がそれぞれの賜物を持って加わってくださり嬉しい限りです。若い世代にもこれからどんどん関わって欲しいと願っています。

またもうひとつ、「インドネシアミッション」にはこのような願いもあります。それはインドネシアの兄弟姉妹からも祝福が流れて来る事です。彼らの良いところ、それは祈り深さだったり、力強さだったり、人との関係作り力であったり、と私は思っていますが、彼らの素晴らしいところが私達

への励ましとなってお互い励まし合いながら前進していければと願っています。

## エンティコン・グロリア寮 I

《献堂式》

2016年10月に造成工事でスタートした新グロリア寮 I ですが、今年初めに建物は細かい部分を除いて完成し、2月2日には寮生たちは無事新しい寮に移転する事ができました。そして3月7日にはJEC(日本福音教会)の先生方、青年達計8名がエンティコンまで来てくださり、エンティコン町長代理や、地域の方々と共に献堂感謝礼拝の時を持つことができました。当日はエンティコンの周辺は大雨という天候でしたが、グロリア寮の周辺は守られました。また、図らずもこの3月7日は旧グロリア寮が20年前に献堂式をした同じ日となり、神様の祝福を感じて大いに励まされました。



日本からも8名が参加した献堂式

新しい寮は20部屋ありますが、舎監の部屋や来客用の部屋を除くと16部屋です。沢山部屋を作ったつもりでしたが、新しい寮完成と共に新入生の申し込みが続々と続き、現在43名の新寮生で締め切って、それ以降の申し込みを断っています。エンティコンは国境近くという事で麻薬が深刻な問題で、自分の子供を心配する親たちに

何とか寮に入れて欲しいと頼みこまれますが、今の段階ではこれ以上増やすのは無理です。舎監のデルフィ夫妻は、60名に膨れ上がる寮生たちの生活水の確保、調理台と棚(自炊のため)、部屋の衣装棚の製作を急いで取り掛かっているところです。



新グロリア寮 I の全景

《継続工事》

グロリア寮 I は、建物部分は完成しましたが(床など一部を除き)、排水溝、屋外のトイレや水のタンク塔、道路の整備、そして寮前斜面の土留めなどまだ工事が続きます。特に山を造成して建てているため、斜面の地崩れ対策の為の土留めと排水工事が重要です。排水工事は現在進行中で、全長455mの工事となっています。また土留めには専門の知識が必要かつ費用も考慮しなければならないので、多くの人が調べていろいろアドバイスをしてくださっています。この6月半ばには専門的な知識を持つ八尾福音教会曙チャペルの高岸泉兄と伊藤勝利先生が、前述の東聖士先生と共に現地を視察してくださり、大変心強く思いました。

## ブンカヤン・ベラカ寮

ベラカ寮の女子4人組、ムンキン、イン

ドリ、リサ、ミミはスルートウンバワン村グロリアII中学生寮から高校進学のためにベラカ寮に入ってきた子たちです。その内ムンキンは中学生の時から献身してATI神学校に入りたいという願がありました。



一番左がムンキン

彼女は今年高校3年生になりますが、その願いは変わっていません。ただ、今彼女は悩んでいます。それは彼女の村の宗教はカトリックで、ATI神学校に入るにはプロテスタントに改宗しなければならないからです。インドネシアでは6つの宗教（イスラム教、ヒンズー教、仏教、儒教、カトリック、そしてプロテスタント）が認められていて、国民はどれかに登録しなければなりません。カトリックとプロテスタントは別のもつと見なされているのです。以前彼女はプロテスタントへの改宗の話をお父さんにしたら、怒られて頬を叩かれたことがありました。改宗するとしたら村の人や友人たちから非難されるかも知れません。舎監達は、彼女に祈って自分で決断するように言っています。彼女が神様のみこころを選んでいけるようにどうぞお祈りください。

### プニティ・アナスタシス教会

5月に3週間カリマンタンに行きましたが、その時にプニティの嬉しい証しをいく

つか聞くことができました。まずはついに教会の土地証書を取得できるということです。ハレルヤ！土地証書の問題は2010年から本格的に手続きをスタートしました。プニティの村長、区域長の同意を取り付けるところから苦勞し、その他の書類もやっと揃え、最後は教団の設立証明が必要となりました。ところがその設立証明書は、教団の過去の分裂問題で出せない事がわかり本当にかっかりしました。フレンキー牧師も牧会にやる気をなくすほどでした。しかし、神様には方法がありました。インドネシアはまだ証書がない土地があちこちあるのですが、それらを早く整えていくために、大統領の特別命令で土地売買の記録など最低限の書類で土地証書を発行していくという政策が今進んでいるのです。そして、なんとちょうどカリマンタンのプニティ周辺がその調整区域となったのです。そういうわけで教会の土地は測量され、今は証書の発行を待っているところです。

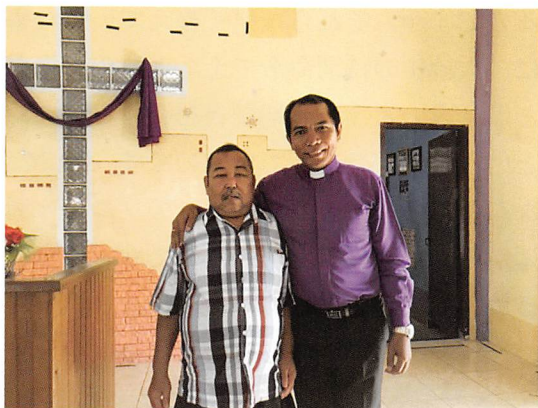


プニティの教会のフレンキー牧師家族と

証書手続き担当だった教会員のシレガールさんは、直前にバイクの事故で足を怪我したのですが、足を引きずりながらも測量に立ち会う喜びようでした。この土地証書は、後で大統領から他の証書取得者と共に直接手渡されるということです。日本の皆

さんのお祈りにも感謝します。

それからもう一つも聞かれた祈りですが、教会のすぐ近くに住む華人インドネシア人のアチさんが救われ、奥さんと子供たちも洗礼の準備をしているのです。アチさんの息子ニコ君が教会学校に来ており、それに対して大反対だったお父さんですが、本当に神様の不思議な方法で癒しを体験し、そしてイエス様を信じて洗礼を受けたのです。アチさんは、「私と私の家族はイエス様を信じていくことに決めました」とはっきりと告白し、お祈りにも「アーメン、アーメン」と応答していました。



見事に救われたアチさん(左)とフレンキー牧師

その他にも教会の周辺の人たちとも、少しずつ良い関係作りができていくという証しも聞く事ができました。フレンキー牧師は近くの小学校で宗教(中国系の子供達にキリスト教を)教えています。その学校の他宗教の先生たちと最初は会話もなかったのですが、次第に会話を交わすようになって、特に婦人たちと仲良くなりつつあるという事です。それからフレンキー師は家族が食べるために土地を借りてお米を作っているのですが、その農作業をする中で近くの人達とのコミュニケーションができるようになりました。なんとその中には過

去にプニティの教会の焼き討ちに関わったという人もいました。「あの時は教会は壊すべきと思っていたけれど、今はそうは思わない」と言っていました。長い間の祈りを通して、神様には時があるのだと教えられました。



新グロリア寮I土留め対策を試行



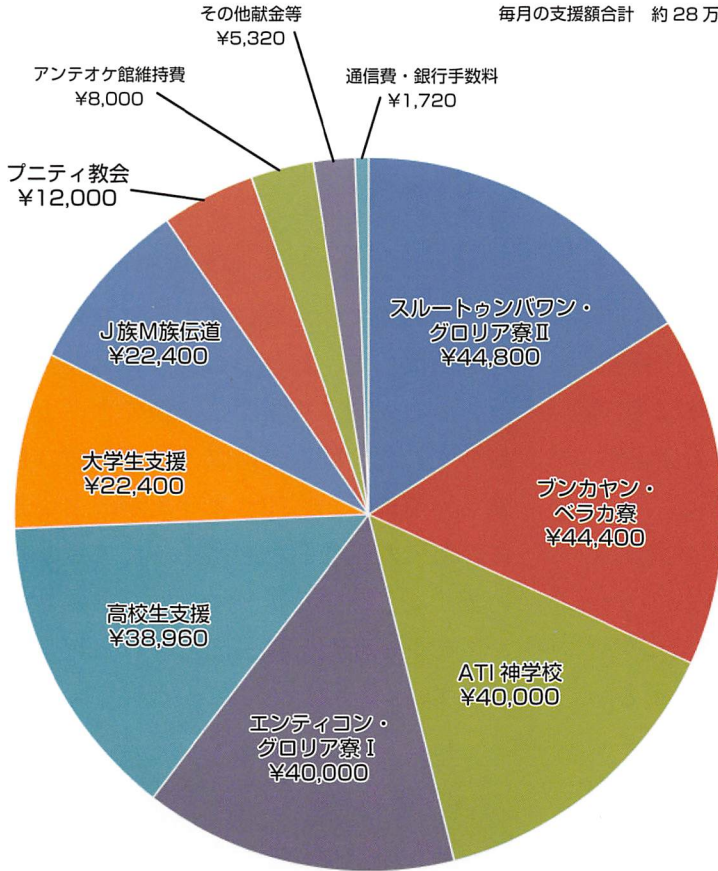
J族M族地域の風景



グロリア寮II前の川でバイクをイカダに乗せて遊ぶ

# 毎月の現地支援金額内訳

毎月の支援額合計 約 28 万円



スルーツンバワン・グロリア寮Ⅱ



舎監ヘルマヌス家族



フェルナンド (右)

ブンカヤン・ペラカ寮



ジュマディ/ギデオン師家族

プニティ・アナスタシス教会



フレンキー牧師家族



エンティコン・グロリア寮Ⅰ



舎監デルフィ家族



1年の実習生ユヌス(右)

J族M族への伝道



ATI 神学校卒業式



ATI スタッフ写真



注：クリスチャンパートナーズよりの支援、および教会等よりの奨学生指定献金は含まれていません。

皆様のあたたかいご支援に感謝致します

## 「スルートウンバワン村を再度訪問して」



京都クリスチャン  
フェロシッブセンター

湯谷 陽子

私は昨年もインドネシア・西カリマンタンの奥地の村、スルートウンバワンを訪問させて頂きました。そこに日本のサポートを受けて優秀な大学を卒業した姉妹が、福音のために地元に戻ってきていましたが、仕事が無いという悲しい現実があることを知らされました。そこで同行していた者達で「今すぐ出来る事は何か？」と現地のリーダーと話し合いました。すると彼はビジョンと計画があることを分かち合ってくださいました。それは、

1. 胡椒の苗を寮の子供達と育てて将来商品にする（既に苗が育てられていた）
2. この地域の食料は山中から採取するのみで、蛋白質不足であり、鶏肉を提供するためにニワトリを飼育したい
3. この時は堺福音教会の東先生がエンティコン・グロリア寮Ⅰの建築のために遣わされて半年近くなりましたが、師はコーヒー豆を育てておられ、この地域でコーヒー栽培ができればと考えておられました。

私はこれらの事をお聞きして主の導きを強く感じ、私もこの計画に参加させて頂くことにしました。そして今回訪問すると

1. 胡椒は成長し、たくさんの実をつけて収穫を待っている状態です。

2. 鶏小屋では沢山の雛が育っており、売ることでもでき、地域の学校から100羽の注文がきている。

3. コーヒー栽培もタネを蒔き、苗を育て成長した苗は本格的に植栽されて生き生きと育っていました。

これらの事を通して、地域の人達はその日暮らしの生活を少しずつでも改善することができる可能性を見る事ができました。また、現地で働き続けているクリスチャン達を訪問して、お互いに励まし合い祈り合うことの大切さを学ぶことができ、主に感謝しました。彼らの自立と福音宣教は長い険しい道のりかも知れませんが、主が遣わされた人たちを愛と忍耐を与えて豊かに用いてくださるよう祈りつつ、この様なチャンスを下された主に栄光と誉れと賛美を捧げます。



コショウ畑を歩いて奥地の村へ



グロリア寮Ⅱのコーヒープロジェクト

## 祈りの課題

### ATI神学校

- ◎今年10月で校長と各課長の任期が終わります。次期リーダーに相応しい人材が選ばれるように。
- ◎神学生たち（約120名）の祝福とスタッフ（約25名）の霊性的のために。
- ◎神学校を支援する現地教会が増やされるように。

### 中高生寮

- ◎エンティコン・グロリア寮I前の斜面の土留め工事が最善に導かれるように。60名の寮生の生活水が確保でき、必要な設備が整えられるように。
- ◎各寮の子供達が個人的にイエス様に出会って変えられていくように。
- ◎各寮の舎監たちの健康と祝福のために。中高生たちを教育面・実際生活面で、また霊的にもよく指導できるように。
- ◎教師、看護師、牧師を目指している寮の卒業生たちの必要が日々満たされるように。誘惑からも守られるように。



3つの寮の合同クリスマス会

### プニティ・アナスタシス教会

- ◎教会に来ている華人中高生たちの家族が救われるように。

- ◎教会の周りに塀を作る計画があります。その必要が満たされるように。

- ◎フレンキー牧師家庭の祝福のために。

### J部族、M部族伝道

- ◎毎週末伝道に行く神学生カレブチームに聖霊の導きと守りがあるように。
- ◎家の教会としてスタートしたJ家族、G家族の祝福のために。
- ◎このために献身している働き人たちのすべての必要が満たされるように。
- ◎J部族の伝道のためにもう一台バイクが与えられるように。

### インドネシアの平和と安全のために

- ◎多様性の中の統一（部族、宗教において）というインドネシア建国の原則が守られるように。
- ◎インドネシアの国（特に標的となる警察、教会）がテロから守られるように。

### インドネシアミッション

- ◎チームワークを組んでインドネシア宣教を前進させていけるように。
- ◎西カリマンタン宣教支援が継続されていくように。
- ◎現地での働きを継続してくださる日本からの宣教師が起こされるように。

